

私たちが国に
お願いしたいこと

協会けんぽへの
国庫補助率の引上げ

現行
16.4% → **20%**

高齢者医療制度の見直し

- 高齢者医療の公費負担拡充
- 高齢者医療を支える現役世代の負担を、
人数割りから支払い能力に応じた
負担に変更

全国**3,600**万人の加入者のため、

国庫補助率の**引上げ**を！
高齢者医療制度の**見直し**を！

日時

平成26年 **11月18日** 火 12:00開会

会場

ニッショーホール（日本消防会館）
東京都港区虎ノ門2丁目9番16号

ホームページでさらに詳しくお伝えしています。ぜひご覧ください。

協会けんぽ 検索

大会次第

1. 開会・議長選出

2. 議長挨拶 東京支部評議会 議長 原山陽一

3. 基調報告 全国健康保険協会 理事長 小林剛

4. 来賓挨拶 厚生労働大臣 政党代表 自由民主党 公明党 民主党 関係団体 日本労働組合総連合会 日本商工会議所 全国中小企業団体中央会 全国商工会連合会 健康保険組合連合会 全国社会保険委員会連合会

5. 意見交換

テーマ：これ以上の負担は限界！

協会けんぽの加入者・事業主の声を国に届けよう！

| | |
|-------------------|-------|
| 山口県立大学社会福祉学部 教授 | 田中耕太郎 |
| 有限会社ユリヤ 代表取締役 | 中村修史 |
| 広島テント工業株式会社 代表取締役 | 井田達成 |
| 鳳自動車株式会社 健康保険委員 | 吉澤幸子 |

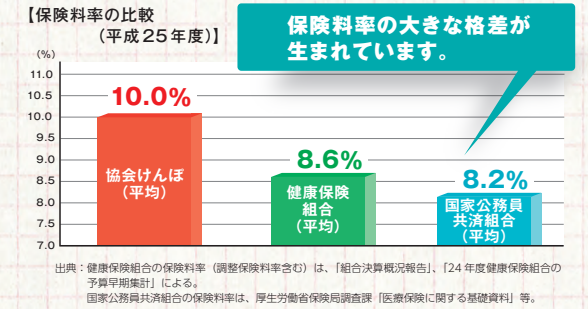
6. 決議

7. 閉会の辞 東京支部評議会 議長 原山陽一

現実1

同じ医療サービスを受けるのに、他の健康保険よりも保険料負担が重い。大きな格差が生まれています。

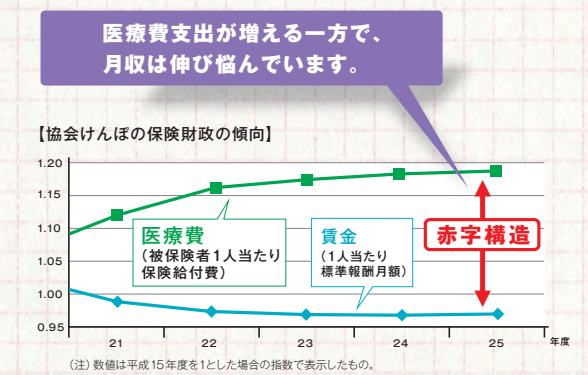
協会けんぽの現在の保険料率は全国平均で10.0%、「健康保険組合」や「国家公務員共済組合」よりも重い負担です。協会けんぽは医療費を抑える「ジェネリック医薬品の使用促進」などの対策を進めてきましたが限界があり、加入者の医療を支え続けるため、やむなく保険料率を引き上げてきた現実があります。



現実2

加入者の負担はもはや限界。さらなる国の補助が必要です。

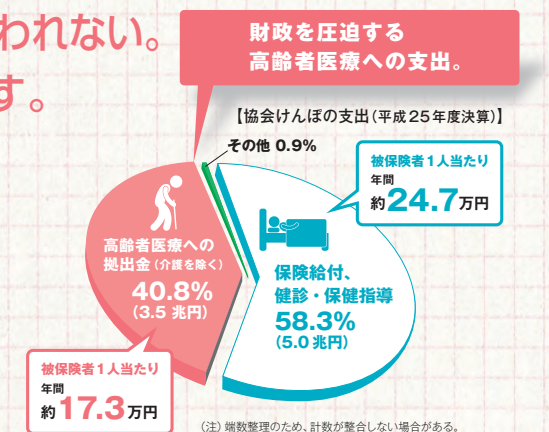
保険料率10.0%は、多くの中小企業にとって負担の限界です。加入者からも、「企業の業績が低迷する中での負担増は、雇止めにつながる」、「将来が見通せず、不安だ」など深刻な声が上がっています。協会けんぽは構造的に財政が脆弱なため、国庫による補助が制度化されており、現在の補助は保険給付費等の16.4%です。しかし、さらなる増額が必要というのが現実です。



現実3

支出の4割は加入者のために使われない。制度の見直しが求められます。

協会けんぽの支出の4割(約3.5兆円)が高齢者医療にあてられており、財政を悪化させています。もちろん高齢者医療を支えることは大切ですが、他に方法はないのか。こうした現実「国民皆保険制度」全体の問題でもあります。さらなる社会の高齢化が進む中、制度の見直しが必要な時です。



現実4

このままでは近い将来、深刻な累積赤字になる可能性も。

協会けんぽの加入者の賃金が現状のまま、国の支援が現在の水準であり続ければ、平成28年度には収支が1,900億円の赤字に。平成30年度には、赤字が5,300億円にまで拡大、積立金も使い果たし、1,700億円の累積赤字となる可能性があります。協会けんぽでは、これまで繰り返し補助の増額を国にお願いしてきましたが、残念ながらいまだ実現していません。